

更生訓練所を利用している視覚障害者の足病変とセルフケアに対する実態調査
病院 外来・入所者診療室 田口華恵 粕谷陽子 中島美香
酒井陽子 西川民子

【はじめに】

更生訓練所で視覚障害利用者が入所者診療室を利用する目的の半数以上が、爪切りなどのケアや巻き爪、白癬などの足の相談であり、足に関するニーズが多い。今回視覚障害者を対象に足病変とセルフケアの実態調査を行なったので、その結果を報告する。

【研究方法】

対象者：更生訓練所利用者で視覚障害者があり同意を得られた者

調査期間：平成 20 年 8 月 26 日～9 月 17 日

方法：アンケート調査と研究者による足の状態観察

【結果】

アンケートの配布数 89 部、回収数 78 部（回収率は 87.6%）

対象者の足病変は、白癬 13 名、深爪 10 名、乾燥 10 名、たこ・うおめ 8 名であった（重複回答）。足病変のある年齢は、30～50 歳代が多く、男性 31 名（72.1%）女性 12 名（27.9%）であった。足病変がある糖尿病 12 名であった。現在も足病変があり足病変の既往のある 34 名であった。

爪は自分で切っている 73 名（94.8%）、家族が切っている 3 名（3.9%）であった。爪切りの頻度は、気になったら切る 30 名（42.9%）、1 週間に 1 回 23 名（30%）、2～3 日おき 2 名（2.6%）であった。爪切りの方法は、爪切り器 69 名、やすり使用 22 名、ニッパー 4 名であった（重複回答）。足の手入れをしている 30 名（39.0%）、していない 47 名（61.0%）であった。手入れの方法は、保湿クリーム 9 名、マッサージ 8 名、軽石 6 名、あかすり 2 名、たこ削り 1 名であった（重複回答）。

【考察】

白癬の感染原因の 1 つとして共同浴室の利用が言われている。更生訓練所で視覚障害利用者に白癬の割合が多い理由として、共同浴室の利用とその他に、毎日の足浴、乾燥等の手入れが十分にできていないことが考えられる。また、ほとんどの人が自己で爪切り器を使って爪を切っていた。視覚障害者は、爪が伸びたかどうかを手で触って確認することとなる。感覚だけで切ると深爪の原因や、皮膚を傷つける可能性もある。特に視覚障害者で糖尿病の割合が多くみられ、糖尿病で神経障害があると皮膚感覚が鈍麻しているために、傷をつけてもわかりにくく治りにくい。今後の Q O L を維持し向上させるために、正しい爪の手入れ方法についての情報提供や白癬等の予防に繋がるセルフケアの実施にむけて支援が必要である。

表1 対象の属性

N=77(%)

	性別		糖尿病の有無	
	男性	女性	有り	なし
総数	58(75.3)	19(24.7)	16(20.8)	61(79.2)
30歳未満	6(7.8)	5(15.4)	3(3.9)	8(10.4)
30歳代	16(20.8)	5(15.4)	6(7.8)	15(19.5)
40歳代	15(19.5)	4(5.2)	4(5.2)	15(19.5)
50歳代	18(23.3)	4(5.2)	3(3.9)	19(24.7)
60歳代	3(3.9)	1(1.3)	0	4(5.2)

表2 足病変のある人の割合 n=43 (%)

	性別		糖尿病の有無	
	男	女	糖尿あり	既往あり
総数	31(72.9)	12(27.9)	12(27.9)	34(79.0)
30歳未満	2(6.5)	1(8.3)	1(8.3)	3(8.8)
30歳代	10(32.3)	5(41.7)	5(41.7)	11(32.4)
40歳代	9(29.0)	2(16.7)	3(25.0)	9(26.5)
50歳代	9(29.0)	3(25.0)	3(25.0)	9(26.5)
60歳代	1(3.2)	1(8.3)	0	2(5.9)

表3 足病変の有無と糖尿病・足への関心との比較

(人) N=77

	足病変		χ^2 値
	有り	なし	
足への関心	有り 29	10	*0.0009
	なし 14	24	
糖尿病	有り 12	4	*0.0215
	なし 31	30	

*p<0.05

表4 足の関心と性別・足の既往との比較

(人) N=77

	足への関心		χ^2 値
	有り	なし	
性別	男 26	32	*0.074
	女 13	6	
足の既往	有り 31	8	*0.177
	なし 25	13	

*p<0.05

表5 足の手入れの有無と足病変の有無との比較

(人) N=77

	足病変あり	足病変なし	χ^2 値
足の手入れ	有り 17	26	*0.0187
	なし 13	21	

*p<0.05